

## 安全データシート (SDS)

## 1 化学品及び会社情報

## 化学品の名称

製品名 IMMOIL-8CC  
IMMOIL-500CC

## 製品コード

## 会社情報

会社名称 オリンパス株式会社  
担当部署  
住所 〒163-0914 東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モノリス  
電話番号 0120-58-0414  
03-3340-2111  
Fax 番号 03-6901-4251  
電子メールアドレス  
緊急連絡電話番号 0120-58-0414  
03-3340-2111

## 推奨用途

顕微鏡、油浸系対物レンズ油

## 使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

## 2 危険有害性の要約

## GHS 分類

## 物理化学的危険性

分類できない

## 健康有害性

皮膚感作性 区分 1  
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分 2 (腎臓)  
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分 2 (肝臓、副腎)

## 環境有害性

水生環境有害性 短期 (急性) 区分 2  
水生環境有害性 長期 (慢性) 区分 2

## GHS ラベル要素

## 絵表示



**注意喚起語  
危険有害性情報**

警告  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
腎臓の障害のおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、副腎の障害のおそれ  
水生生物に毒性  
長期継続的影響によって水生生物に毒性

**注意書き**

## [安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
取扱後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

## [応急処置]

皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。  
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
漏出物を回収すること。

## [保管（貯蔵）]

施錠して保管すること。

## [廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

**他の危険有害性**

本製品は可燃性であるが容易に着火しない。

**重要な徴候及び想定される非常事態の概要**

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
腎臓の障害のおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、副腎の障害のおそれ

---

**3 組成及び成分情報**

---

**化学物質・混合物の区別**

混合物

**組成及び成分情報**

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
1-フェニル-1- (3,4-ジメチルフェニル) エタン	6196-95-8	化審法	15
1,4-ジメチル-2- (1-フェニルエチル) ベンゼン*	6165-51-1	4-38	7
1-フェニル-1- (2,4-キシリル) エタン	6165-52-2	4-244	12
エチル (フェニルエチル) ベンゼン	64800-83-5	-	6
その他の成分	-	-	60

\*化学物質審査規制法 優先評価化学物質

#### 4 応急措置

##### ばく露経路による応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	気分が悪い時は医師の手当てを受けること。 直ちに皮膚を流水と石鹼で洗浄すること。 皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	清浄な水で15分間以上洗眼し、直ちに医師の手当てを受けること。 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄すること。
飲み込んだ場合	直ちに吐き出させて安静にし、医師の手当てを受けること。 口をすすぐこと。

##### 急性症状の最も重要な徴候症状

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
腎臓の障害のおそれ

##### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、副腎の障害のおそれ

##### 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

二次ばく露を防ぐため、応急措置をする者は適切な保護手袋/保護衣/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。

##### 医師に対する特別な注意事項

情報なし

#### 5 火災時の措置

##### 適切な消火剤

泡消火剤、二酸化炭素、乾燥粉末消火剤

##### 使ってはならない消火剤

消火ホースからの棒状注水は火災を周辺へ広げる可能性がある。

## 火災時の特有の危険有害性

可燃性：本製品は燃えるが、容易には発火しない。  
燃焼により毒性ガス・ヒュームを発生することがある。

## 特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動すること。  
初期火災の場合、粉末消火剤、二酸化炭素などを用いる。  
大火災の場合、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。  
周辺設備などに散水し冷却すること。  
消火作業は風上から行うこと。

## 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火活動の際は空気呼吸器、化学防護服を着用すること。  
密閉された場所で消火作業を行う場合は、自給式呼吸器を着用すること。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

風上に留まること。  
作業者は適切な保護具（『8 ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避けること。  
密閉された場所に立ち入る前に換気すること。

### 環境に対する注意事項

環境中へ放出しないこと。  
河川等に排出され、環境に対して影響を起こさないように注意すること。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止めること。  
少量の漏出の場合、ウエス、乾燥土、おがくず、砂などに吸収し、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄すること。  
大量の漏出の場合、盛土で囲って漏出を防止し、液体表面を泡で覆い、できるだけ空容器に回収すること。

### 二次災害の防止策

直ちに裸火、高温物などのすべての発火源を取り除くこと。  
漏洩物を取り扱うときに用いる全ての設備は接地すること。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

### 取扱い

#### 技術的対策

火花を発生させない工具を使用すること。  
裸火、静電気放電、電気スパークなどの着火源から遠ざけること。  
『8 ばく露防止及び保護措置』の項に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。

安全取扱注意事項	『8 ばく露防止及び保護措置』の項に記載の局所排気または全体換気を行うこと。 漏出を防止すること。 取扱後は、手、顔などをよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 吸入したり飲み込んだりしないこと。 眼や皮膚との接触を避けること。
接触回避 衛生対策	高温の表面、火花、裸火などの着火源 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
<b>保管</b>	
技術的対策	全ての保管容器は接地し、火花の発生しない工具、装置を使用すること。
混触禁止物質	強酸化剤
保管条件	容器を密閉して換気の良い場所に保管すること。 強酸化剤から離して保管すること。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

---

## 8 ばく露防止及び保護措置

---

### 管理濃度

設定されていない

### 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2020)	設定されていない
ACGIH TLV-STEL (2020)	設定されていない
日本産業衛生学会（2019）	設定されていない

### 設備対策

十分な換気がされている、または密閉系でのみ本製品を取り扱うこと。  
この物質を貯蔵または取扱う作業場所には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

### 保護具

呼吸用保護具	有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器などを着用すること。
手の保護具	耐油性保護手袋を着用すること。
眼及び/又は顔面の保護具	適切な保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

### 特別な注意事項

保護具は保護具点検表により定期的に点検すること。

**9 物理的及び化学的性質**

物理状態	液体
色	無色
臭い	情報なし
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	≤200°C
可燃性	情報なし
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	154°C（クリーブランド開放式）
自然発火点	≤300°C
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数（log 値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	密度：0.918 g/cm <sup>3</sup> （15°C）
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	該当しない

**10 安定性及び反応性**

反応性	本製品は通常および想定される取扱い、保管条件下では非反応性物であると考えられる。
化学的安定性	本製品は光、熱に対して安定である。
危険有害性反応可能性	情報なし
避けるべき条件	高温の表面、火花、裸火などの着火源。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼により毒性ガス・ヒュームを発生することがある。

**11 有害性情報****製品の有害性情報**

急性毒性（経口）	ラット LD <sub>50</sub> > 2,000 mg/kg
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における液体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	ヒトに対して皮膚への継続的または繰り返し接触により、軽度の刺激性がある。 ウサギ：軽度の刺激性
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギ：ごく軽度の目の刺激性
呼吸器感作性又は皮膚感作性	ヒトに対して継続的または繰り返し皮膚への接触で、ごく軽度のアレルギー性皮膚炎を引き起こす恐れがある。

生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

### 成分の有害性情報

1-フェニル-1-(3,4-ジメチルフェニル) エタン、1,4-ジメチル-2-(1-フェニルエチル) ベンゼン、  
1-フェニル-1-(2,4-キシリル) エタン、エチル（フェニルエチル）ベンゼンの混合物

急性毒性（経口）	ラット LD <sub>50</sub> = 1,940 mg/kg（雄） ラット LD <sub>50</sub> = 2,200 mg/kg（雌）
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	ラット LC <sub>50</sub> > 1.8 g/m <sup>3</sup>
皮膚腐食性／刺激性	ウサギ：中等度の刺激性（一次刺激指数：2.8）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギ：刺激性なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	モルモットの皮膚感作性試験（Buchler method）：陰性 モルモットの皮膚感作性試験（GMPT：Maximization method）：陽性
生殖細胞変異原性	（ <i>in vitro</i> ）Ames 試験および染色体異常試験（細菌）で陰性
発がん性	ラットの24ヶ月間の試験において発がんおよび発がん助長の作用は認められなかった。
生殖毒性	マウスにおいて催奇形活性は認められなかった。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	頭痛、吐き気、めまいを引き起こす恐れがある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし
その他の情報	1.5 mg/kg（2日間）の用量で投与したマウスにおける29日後の生物濃縮率：0.02%

1-フェニル-1-(3,4-ジメチルフェニル) エタン

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし

発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## 1,4-ジメチル-2-（1-フェニルエチル）ベンゼン

急性毒性（経口）	ラットを用いた単回投与毒性試験（OECD TG 401、GLP）において、2,000 mg/kg を投与し、死亡例は雌雄各 5 匹中雄が 1 匹、雌が 2 匹であったことから、LD <sub>50</sub> 値は 2,000 mg/kg 以上と推定される。
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	GHS の定義における液体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	<i>in vitro</i> 試験として、エームス試験および CHL/IU 細胞を用いた染色体異常試験でいずれも陰性が報告されている。
発がん性	情報なし
生殖毒性	ラットの経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験（OECD TG 422、GLP、用量：0、12.5、50、200 mg/kg/day）において、親動物では、200 mg/kg 群の雄で投与後期に、雌で妊娠及び哺育期間中に体重の増加抑制あるいは増加抑制傾向が認められた。一方、生殖機能に関しては、性周期、黄体数、着床痕数、交尾率、受胎率及び交尾所要日数に被験物質投与の影響は認められなかった。また、分娩及び哺育期検査では、妊娠期間、出産率、出産児数、出生率、新生児数、死産率、性比、哺育 0 及び 4 日の新生児体重並びに 4 日の生存率に被験物質投与の影響はみられず、新生児の外表検査においても異常は認められなかった。以上の結果から、投与による性機能・生殖能に及ぼす悪影響は示されなかったが、仔の発生に対しては、妊娠末期の胎仔検査のデータはなく、その影響についてはデータ不十分ある。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	ラットを用いた単回経口投与試験において 1,000 mg/kg 以上の用量レベルで体重の減少、2,000 mg/kg 以上の用量レベルで腎臓への影響が認められた。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	生殖/発生毒性スクリーニング試験と組み合わせた反復投与毒性試験で副腎、肝臓に影響が認められた（成体ラットの経口投与試験）。 LOAEL = 12.5 mg/kg/day（雄） LOAEL = 200 mg/kg/day（雌）



誤えん有害性 情報なし

#### 1-フェニル-1-(2,4-キシリル) エタン

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

#### エチル（フェニルエチル）ベンゼン

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

---

## 12 環境影響情報

---

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

## 成分の環境影響情報

1-フェニル-1- (3,4-ジメチルフェニル) エタン、1,4-ジメチル-2- (1-フェニルエチル) ベンゼン、  
1-フェニル-1- (2,4-キシリル) エタン、エチル (フェニルエチル) ベンゼンの混合物

水生環境有害性	短期 (急性)	情報なし
水生環境有害性	長期 (慢性)	情報なし
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし
土壤中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		該当しない

1-フェニル-1- (3,4-ジメチルフェニル) エタン

水生環境有害性	短期 (急性)	情報なし
水生環境有害性	長期 (慢性)	情報なし
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし
土壤中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		該当しない

1,4-ジメチル-2- (1-フェニルエチル) ベンゼン

水生環境有害性	短期 (急性)	甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 $EC_{50} = 0.25$ mg/L
		甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 $EC_{50} = 0.39$ mg/L
水生環境有害性	長期 (慢性)	甲殻類 (オオミジンコ) 21 日間 $NOEC = 0.009$ mg/L
残留性・分解性		$BOD = 0\%$
生体蓄積性		情報なし
土壤中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		該当しない

1-フェニル-1- (2,4-キシリル) エタン

水生環境有害性	短期 (急性)	情報なし
水生環境有害性	長期 (慢性)	情報なし
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし
土壤中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		該当しない

エチル (フェニルエチル) ベンゼン

水生環境有害性	短期 (急性)	情報なし
水生環境有害性	長期 (慢性)	情報なし
残留性・分解性		情報なし
生体蓄積性		情報なし
土壤中の移動性		情報なし
オゾン層への有害性		該当しない

## 13 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理すること。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避けること。

### 汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14 輸送上の注意

### 国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	3082
品名（国連輸送名）	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	9
副次危険性	-
容器等級	III

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	3082
品名（国連輸送名）	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	9
副次危険性	-
容器等級	III
海洋汚染物質（該当・非該当）	該当
IBC コード（該当・非該当）	非該当

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号	3082
品名（国連輸送名）	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	9
副次危険性	-
容器等級	III

### 国内規制

陸上規制情報 消防法に従う。

海上規制情報	船舶安全法に従う。
海洋汚染物質	該当する。
航空規制情報	航空法に従う。

#### 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめること。  
 危険物および容器が落下、転倒、破損しないように積載すること。  
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行うこと。  
 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、最寄りの消防機関およびその他の関係機関に通報すること。  
 重量物を上積みしないこと。

---

## 15 適用法令

---

### 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質審査規制法	優先評価化学物質（ジメチル（1-フェニルエチル）ベンゼン）
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体
毒物劇物取締法	該当しない
海洋汚染防止法	有害液体物質（Y類物質相当）
航空法	環境有害物質（液体）
船舶安全法	環境有害物質（液体）

---

## 16 その他の情報

---

### 参考文献

メーカー提供資料  
 NITE GHS 分類結果一覧（2020）  
 日本産業衛生学会（2019）許容濃度等の勧告  
 ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2020) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意下さい。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。